

権現堂



桃林寺の隣にあるんだね。

薩摩藩は半リシタン宗門改めと島の人々の調査を行うために、桃林寺や権現堂を建てるよう進言したんだ。創建時には鏡三面がご神体として祀られていたんだ。現在でも飢饉安全や五穀豊穡、家内安全の祈願所として島の人々に敬われているんだよ。



八重山の人々の崇敬を集めた神社



拝殿(奥に見えるのが神殿)

薩摩藩が八重山の検地を行った際、尚寧王に社寺を建てるよう進言したことを受け、1614(万暦42)年、隣接する桃林寺と同時に建立されたものです。

祭神は熊野大権現で、八重山における社寺建立と仏教伝来の始めともいわれています。

敷地は南西に面し、薬医門、拝殿、神殿が

一直線に配置されています。薬医門は切妻造りの屋根で、拝殿は寄棟造りの屋根と両脇に祭壇を配し、神殿の屋根は中央の火焰宝珠や両脇の竜頭など細部技法に特色があります。

建築当初の屋根は茅葺きでしたが、尚貞王代の1669~1709(康熙8~48)年に瓦葺きに替えられました。





神殿



竜頭と火焰宝珠



24°20'36.7"N 124°09'21.2"E

旧和宇慶家墓



門がある
とても大きくて、
立派な墓だね。

長田大主は波照間島で生
まれ8歳の時に石垣島に渡
って、その後八重山を統治
することになる人物。オヤ
ケ・アカハチの乱の時に
首里下府に協力して、乱を
鎮圧した。とても知られて
いるよ。



長田大主の子孫が眠る凝った造りの大きな墓



外庭から見た旧和宇慶家墓

和宇慶家は、15世紀末の「オヤケアカハチの乱」の時代に活躍した長田大主の子孫であり長栄姓の流れをひいています。玻武名家五代信茂の第二子真邦を祖とし、18世紀後半に頭職を出した名家です。この墓は小高い丘陵を利用して造られた洞穴式の墓で、1441㎡(436坪)と広大です。建築年代は不明ですが、17世紀後半以前だと考えられています。墓室は自然の洞穴をさらに掘削し掘げたもので、

前面に石積みがあり、拱門で入口を作っています。入口には縦格子があり、正面右斜め上から墓室に通ずる構造です。墓室内には5枚の平たい石を組み合わせた石棺一基が納められています。また、墓室の前に半円形の石垣をめぐらせて内庭とし、石垣中央の拱門から外庭に出ることができます。墓室を覆う岩盤の上には、石を敷いて寄棟状の屋根が作られています。





墓室(入口)



内庭と外庭をつなぐ拱門(表門)



墓室(正面)



24°21'47.7"N 124°09'53.6"E

国指定重要文化財(平19.12.4)

ぎゅう よ な くに け

旧与那国家住宅

じゅう たく

住宅



古い空に映える赤丸が
キレイ。
竹富島に来たってことを
実感する建物だね。



与那国家は「マイコメンヤ」と
呼ばれていたんだ。与那国家が
本家から分家した際に建てられ
たと考えられているよ。大正年代
初期の最先端の知識と技術を駆
使して造られた建物なんだ。



大正初期に建てられた竹富島の立派な住宅



旧与那国家住宅

竹富島の東屋敷集落に所在し、主屋(ウフヤ)と台所棟(トーラ)を並べた分棟型の住宅です。主屋(ウフヤ)は沖縄の伝統的な間取りで、1913(大正2)年に建造され、正面には石積みの「マイヤシ」と呼ばれるヒンプンが建ち、

「グック」と呼ばれる石垣をめぐらせています。竹富町竹富島重要伝統的建造物群保存地区の核となる住宅で、近代の竹富島における住居形態と生活様式を知る上で高く評価されています。





主屋(ウフヤ)



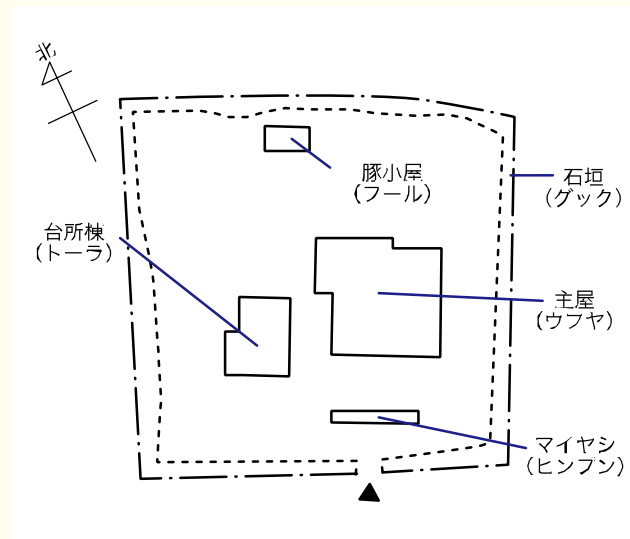
マイヤシ(ヒンフン)



主屋(ウフヤ)



豚小屋(フル)



24°19'43.0"N 124°05'14.6"E

美崎御嶽



石門の上に宝珠を乗せているのは珍しいね。

石垣市登野城にあるよ。神女は「貞乙姫」といい、首里から送られた兵が乗った船が無事に那覇港へ戻ることができまふようにと祈ったんだ。



オヤケアカハチの乱ゆかりの重要な拝所



美崎御嶽



石門



尚真王代1500(弘治13)年、オヤケアカハチの乱の時に、首里王府から石垣島へ派遣された兵船が無事に沖縄島へ戻ることが出来たことから、この御嶽が建てられました。当時、美崎ヤマと呼ばれていたこの場所には、航海の安全を祈願するために神女がこもったといわれています。

御嶽の周囲は石垣がめぐらされ、中央部に石門があります。石門の棟中央に火焰宝珠をのせてあり、規模は小さいですが、園比屋武御嶽石門に類似しています。石門を「イビの前」と言い、その奥の石や岩、大木等がある処が「イビ」と呼ばれる神域です。

この御嶽は、王府に派遣された役人の離着任時や農耕儀礼等が行われる際の拝所でした。現在も地域の信仰の場となっています。



24°20'13.47"N 124°9'38.61"E



自由に中を見学することができるんだね。

テーブルリン1の石積みが見事だね。2019年には8年ぶりに茅の目き替えが行われたんだ。茅葺の技術を若い人に継承していくことが目的だよ。



しん もり け じゅう たく
新盛家住宅



祖納集落の高台に建てられた木造茅葺の住宅



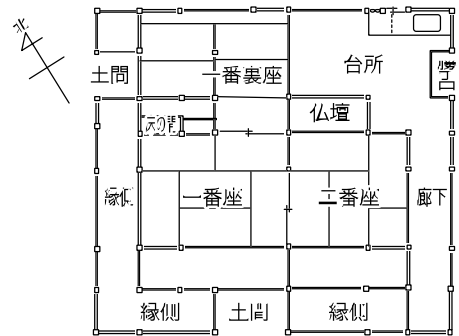
新盛家住宅

新盛家住宅は、祖納集落にあり、1853(咸豊3)年に創建されたと推定される、沖縄県内に現存する最も古い木造茅葺きの民家です。

敷地の西側が「神の道」(ミルク道)に面しているため、神様に失礼のないように一番座を西側に設けており、一般的な民家の形式とは逆の間取りになっています。建物の骨組みは、貫木屋と呼ばれる釘や金具を使わず楔で締める方式です。柱や梁にイヌマキ(チャーギ)、内装にセンダンやフクギ、垂木にヒルギなど西表産の木材が用いられています。また、一番座と二番座は竹床になっており、柱の間隔がまちまちで一定していないという特徴をもっています。



内部



24°23'21.6"N 123°44'47.6"E

